

緑 窓

第17号



青山学院中等部緑窓会会報
2008年(平成20年)5月1日発行
青山学院中等部緑窓会 発行人 今村和久
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
電話/FAX 03-3498-5387
E-mail: ryokusoukai@ceres.ocn.ne.jp

みんな中等部で学んだ、そして・・・ 中等部緑窓会会長 崎田 克己(十四期)



二〇〇二年五月から三期六年間、緑窓会会長をお務め頂いた今村和久前会長の跡を引き継ぎ、この五月から会長を務めます十四期生の崎田克己です。宜しくお願い申し上げます。

さて青山学院で現在活動中の幾多の同窓会の中で中等部緑窓会が最も古い歴史を有することを存知でしょうか？私達の緑窓会は「原点・祝祭・継続」の標語の下、その長い活動の歴史を重ねてきました。

「原点」とは何でしょうか？・・・私が通った中等部の校舎はいま跡形もなく、懐かしい先生方も今は居られません。しかし今でも中等部をごく身近に感じる事があります。それは街角であの制服を着た中等部生を見つけた時です。瞬間的にその昔の自分に戻ります。自らの半生を瞬時に振り返っています。同時にこの制服の生徒たちの明るい未来を祈る気持ちになります。これが世代を超えた同窓としての「原点」ではないでしょうか。

「祝祭」・・・昔の仲間が集まれば、心から祝い、大いに楽しめず。毎年六月の(緑窓会の日)では、幹事役の期生が企画し大勢の方々に楽しんで頂きます。それは世代を超えた祭りの響きが自らの原点に安心感を与えてくれるからです。そしてこの小さくとも変わるこの日常活動の「継続」が力となり、毎年新しい会員を迎える緑窓会の希望を育んで行きます。私は初等部から大学まで青学で学んだので幼稚園と短大を除き同窓会部会の会員でもあります。そこで気がつく事は、青山学院校友会や全ての部会がいま工夫を凝らしているということです。これは私学経営に年々厳しさが増している現代社会の時代背景と無縁ではありません。同窓会の役割は互いの交流に留まらず母校の発展を支えていくことにもあります。緑窓会役員は会員や中等部教職員の方々とご相談しながら、中等部生の成長を見守り支えていきたいと考えています。皆さんの変わらぬご協力とご参加をお待ち申し上げます。

第十九回「緑窓会の日」 二〇〇八年六月七日(土)

実行委員長 桑 和美(十九期)

「緑窓会ならではの！音で味わう江戸文化」

一中節をご存じですか？ 常磐津・清元・長唄などは歌舞伎などで聞いていましたが、その原点・一中節が、かくも品格のある音楽で現代も脈々と生きていることを、同級生藤堂君が第十二世家元都一中になるまで知りませんでした。それにしても日本人が育んできた音の表現なのに、邦楽はごく近年まで学校で教える音楽ではなかったため、今やかなりの人にとり英語圏音楽より遠い印象ではないでしょうか？

だから今こそ稀有の語りと傑出した技量の中さんの自在なレクチャーと演奏を、ぜひ同窓生に聞いていただきたいと思うのです。七五調でなんとここちよく語られる浄瑠璃の

美しい言葉や不思議な掛け詞、そして言葉をもつとも引き立たせる音の響きを、江戸の華やかで繊細な美術映像を重ねて味わっていただきたいと思います。

私たちが中等部に在学したのはわずか数年ですが、その想い出と友情をはぐくむ同窓会は、中等部卒業生がいる限り永遠に続きます。今までの十八回の同窓会の催し「緑窓会の日」の講演と公演はそれぞれに素晴らしいものでした。中等部時代と同じ懐かしい礼拝ではじまり、楽しく美味しい茶話会、そしてレクチャーコンサートと進む十九回「緑窓会の日」も、たくさんの方の同窓生交歓の魅力的な場となるよう仲間と作りま

す。ぜひご参加ください。

緑窓会の日（六月七日（土））

演奏者・講演者のプロフィール

レクチャーコンサート（音で味わう江戸文化）
講師 第十二世一中節家元 都一中（みやこ いっちゅう）

一中節とは・・・元禄時代（二六八八）、絵画では尾形光琳、文学では近松門左衛門が登場しました。それに先立つこと数年、まだ当時新しい楽器だった三味線を片手に京都のお寺の跡取りが芸能界にデビューしたのが始まりで、初世都一中です。彼の死後も一中節は、常磐津、清元、新内などの源流となりました。レクチャーコンサートでは、十九期の第十二世都一中が、初代一中が活躍した元禄から、隆盛の文化文政、そして幕末期と浄瑠璃の名曲の聞き所を興味深く解説しつつ大小鼓、笛、太鼓などの囃子もくわえて、気品ある一中節とドラマティックな常磐津を、賑やかに、また、密やかに演奏いたします。

演奏曲目 一中節『隅田川』

一中節『道成寺』

常磐津『三社祭禮之段』他

出 演 浄瑠璃 都一中 常磐津文字絵弥 都一光

三味線 都一中

上調子 都楽中

囃子 福原百之助社中

都一中プロフィール

一中節都派宗家家元十二代目。本名藤堂誠一郎。重要無形文化財保持者。

一九五二年東京生まれ。一九八一年二代目常磐津文字蔵。

一九九一年後継者の指名を受け第十二世都一中襲名。

第十八回緑窓会の日

十八期 実行委員長 小平 昌邦

昨年の「緑窓会の日」には、二六四人という多くの方に出席していただき、ありがとうございました。午後一時半、青学講堂での礼拝に始まり、続く講演会、地下の短食堂での茶話会、そして、講堂に戻っての演奏会という四時間を、皆さん楽しんでいただけたことと思います。その二年ほど前、実行委員長として、

できるだけ多くの人に集まってもらって、楽しい会を開こう、という計画を立てました。そして、わが十八期の多くの人に出演してもらって楽しい会にすれば、同期の人がたくさん来てくれて、他の期の方々も盛り上がるのではないかと考えました。二転三転してまとまった当日のプログラムには、礼拝の司式の横山英実くん、奏楽の田中正子さん、「相続と熟年離婚」の講演をしてくれた弁護士、山田秀雄くん、そして浜口茂外也くんをはじめ演奏の十三人、と高等部からの同期生を含めて十六人が出ました。

礼拝でお話をしていただいた青山学院宗教部長の嶋田順好先生は、横山くんから東京神学大学の「同期」ということで紹介してもらいました。その後で、浜口くんとは早稲田高等学院で同じクラスだとわかったときには、世の中の不思議な

縁を思いました（また、先生が以前牧師を務められていた教会に、私の同級生が通っていたという縁にも驚きました）。

「緑窓会の日」の後、中等部時代の友人たちと、食事会などで集まることが多くなりました。中には卒業以来、あの日まで四十年間会っていなかった友、在籍していたときは、話をしたことのない友もいます。でも、親しく、楽しい時を過ごせるのは、同期ゆえ。その中等部で育ったことを、今後でも大事にしていきたいと思っています。



同期会便り

十四期大同期会

十四期 黒沼 健

ベビーブーマーの十四期生もいよいよ還暦を迎えるというので、二〇〇七年五月十九日に中部部・高等部合同の大同期会を開催しました。まず、建替えて消滅することになった高等部校舎の見学会を行なって、午後五時半から青学会館サフランの間でメインイベントの懇親会を持ちました。当日は予想を上回る二〇〇人近い出席があり、先生方も中・高合わせて十人のご参加を頂くことが出来ました。最初は礼拝で、讃美歌五一〇番を歌った後、野村裕之君のメッセージを聞き、流れ去る時間のなかで積み重ねられていく人生に思いをめぐらす機会が与えられました。礼拝の後、写真撮影を済ませてからいよいよパーティーに突入、宇津宮雅代さん・菅原義徳君の司会のもと、歓談、演奏、抽選会など盛りだくさんのプログラムが滞りなく進行し、あっという間に三時間が過ぎました。最後はおきまりのカレッジソングを斉唱し、再会を約束して家路(?)についた次第です。



中部部文化祭

十一月十日十一日の両日、中部祭が開かれ、同時に多目的室において、緑窓会の部屋が設けられました。その折、在校生の面白いアンケートを見つけました。

中部部生にアンケート

○今一番興味あるものは?

男子 一位 スポーツ 二位 読書

三位 ゲーム

女子 一位 音楽 二位 進路

三位 漫画

珍回答 中国デイズニールランド

○好きな科目は?

男子 一位 数学 二位 体育

三位 社会

女子 一位 音楽 二位 英語

三位 美術

○一番怖いものは?

男子 一位 ホラー 二位 先生

三位 死

女子 一位 ホラー 二位 家族

三位 虫

珍回答 降車直前に来る睡魔

○願いが一つ叶うなら?

男子 一位 彼女をつくる

二位 無限に増やす

三位 語学習得

女子 一位 魔法を使う

二位 理想に近づく

三位 空を飛ぶ

まだまだ面白いアンケートがあり

ましたが、紙面の都合上この位に。本年はぜひお出かけ下さい。二十一世紀の中部部生気質に触れてみると楽しいですよ。

緑窓会の部屋



紫綬褒章の受章おめでとうございます

堀越夏雄君 河村順之君

元中等部教諭 伊藤 哲朗

平成十九年夏、堀越夏雄君は子どもの日の祝日に受賞。河村順之君は菊の香る文化の日に受賞されました。

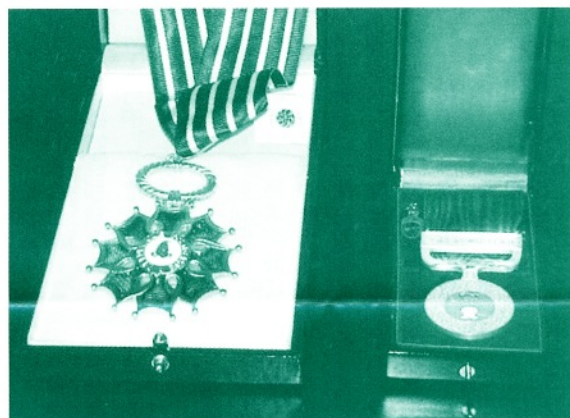
この榮譽は、永い年月、日本の芸能の発展のために尽くしてこられた功績と高い芸術性を表現しておられる努力に対して贈られたのであります。

青山学院中等部の数多い卒業生の中で十三期のご両人が揃ってこの名誉を讃えられたことは、緑窓会会員一同と共に大いに喜び、ますます今後のご活躍を期待しております。学友の中から日本の歌舞伎の名優が育っていることを喜び、さらに歌舞伎の舞台を楽しむにいたしましょう。この受賞のお喜

びは十三期生が六十歳の寿（還暦）の集いがあつてから、新しい年を迎えて訪れた朗報でありました。

さらに市川團十郎は、パリのオペラ座で日本の古典「勧進帳」を公演されて、パリの人を感激させたという成功の物語が報告され、その席で、日本の芸能である歌舞伎が高い評価を受けコマンドール賞がフランス政府から送られました。この度の喜びは、堀越君が二つの花道を手にしたという驚きの人生行路に私たち一同が最高の賛辞を送っているところであります。

歌舞伎は日本の古典芸能の一つです。昭和四十年（一九六五）には、国の重



要無形文化財に指定されており、さらに平成十七年（二〇〇五）には、世界無形遺産に選定されています。

歌舞伎は、江戸時代の慶長八年（一六六三）、京都で誕生しました。出雲の阿国（いずものおくに）という女性の一座が、四条河原の舞台で踊り、これが歌舞伎のはじまりと言われています。

その後、舞台に立つ芸の役者は男性に限られたという事で、この斬新な演出が京都の庶民に大変な人気をよびました。奇抜な衣装や髪型に、歌舞伎の舞台姿が表現されておりこれらが伝統の芸能として受け継がれてきました。二人の歌舞伎舞台の芸名の歩みをたどると堀越君が十二代目市川團十郎の

名跡を襲名したのは昭和六十年。それまでの芸名を数えると七歳の市川夏雄での初舞台から、三十三年新之助、四十四年十代目市川海老蔵と変っています。河村君は平成四年四代目中村梅玉を襲名しましたが、それ以前は昭和三十一年加賀屋福之助、四十二年八代目中村福助を襲名しています。

兩人ともすでに、芸術院賞、眞山青果賞大賞他数々の受賞歴がありますが、この度の輝かしい榮譽を励みとして、御二人の一層の活躍を祈っています。

勸進帳 市川團十郎丈



妹背山婦女庭訓 中村梅玉丈



市川團十郎丈



中村梅玉丈



十三期の星

山本 舜一

ちょうど一年前、市川團十郎さんが「フランス芸術文化勲章・コマンドー」と日本の「紫綬褒章」とをダブルで受賞した、というニュースがマスコミを駆け巡りました。初・中・高等部の同期の有志が連休明けに急遽集まって相談をし、「堀越夏雄さん・W受賞を祝う青山同期の会」という臨時同期会を開催しようということになりました。本人の予定が空いているのは六月一日



(金)しかなくその日に決めたものの、案内状を作成して発送できたのが五月二十三日——たった一週間前に受け取った案内状で果して何人が集まってくるか、と大いに気をもみました。

ところが、当日会場となった恵比寿・ウエスティンホテル東京「桜の間」に集まったのはなんと総勢八十名、普段から友達を大切にする堀越さんの人柄がこれだけの人をよんだのでしょうか。

この日ばかりは『團十郎』という公の衣は脱ぎ捨て、幼なじみの「堀越くん」に完全に戻ってもらい、取るものもとらずあえず駆けつけてくださった中等部で担任だった伊藤哲郎先生と斎藤三紗絵先生はじめ、同期の仲間達と、大いに語り、大いに飲み、そして大いに笑って貰いました。

会の圧巻は、パリ・オペラ座で喝采を浴びた堀越さんのフランス語による口上の披露と同期のみんなで贈った「Etoile de 13」(十三期の星)と称する勲章の授与でした。これは、同期の彫金家の手作りになるもので、堀越さんも「フランスや日本の勲章よりも嬉しいくらいだよ!」と、青山の友からの贈り物にご満悦の様子でした。お互いに、「持つべきものは青山の友」を実感した一日となりました。

堀越夏雄さん・W受賞を祝う同期の会

中等部担任だった伊藤哲郎先生、斎藤三紗絵先生をはじめ、総勢80名が集まりました。團十郎丈の胸には同期から送られた「Etoile de 13」(十三期の星)が輝いています。



同期会便り

十九期三Bクラス会

十九期 越尾 静江

二〇〇七年七月二十一日、十九期三Bのクラス会が二十年振りに麻布十番の「築地 一隅」にて開催されました。担任の松井(尾崎)篤子先生が、幅広くから横浜に転居され、一段落されま



したので、開催の運びとなりました。

当日は三B二十五名、さらに他のクラスから二名の参加があり、懐かしい面々が揃いました。松井先生のご挨拶に始まり、全員一人三十秒ずつの持ち時間での近況報告の後、歓談にうつり大変盛り上がりしました。三時間はあっという間に過ぎ、二〇〇八年の緑窓会の日の再会を楽しみに再開となりしました。最後に、住所シールを発行して下さった緑窓会のかた、葉書と名簿の印刷を引き受けてくれた友達、当日の受付を快よく引き受けてくれた友達、二次会の会場を探して下さった友達、みなさんの熱い友情に感謝。

緑窓会のお手伝いを募集しています。

緑窓会の事務室でお手伝い下さる方を募集しています。お子様の手の離れた方、久しぶりに母校で仕事をしたい方、是非ご連絡下さい。

○毎週火曜日午前十一時～午後四時

○中等部卒業生

○御自宅より一時間以内希望

○詳細は面談にて

○連絡先 ○三(三四九八)五三八七

四期生同期会

四期 志賀 俊也

平成十九年十月十九日中等部四期の同期会を、高等部四期と合同という形で開催しました。私達四期は「古稀」を迎える年代で、昔は古来稀だとお祝いをされていましたが、現代は特に珍しくなく、人生の一区切りとして生きていて無事に通過したという感謝だけのことだろうと思います。しかしこの節目となる機会に旧交を温めたいと同期生に呼掛け期会を開きました。場所は青学会館で、恩師五名を含め九十四名の参加者で賑やかな会を持つことができました。伊藤弘子さんの司会で会は進行し、五十年振りに会う同期会初参加の方も皆さん楽しく交流され、午後の二時間は瞬く間に過ぎ話は尽きないまま閉会となりました。幹事(小生)の配慮が足りなく、後日短すぎたとお叱りを受け反省しきりです。

私の中等部時代の思い出は、特に之と言ったものではありませんが、石炭ガラの敷かれた校舎周りのスペースでボール遊びをし、ボールがレンガ積の塀の上に乗ったのを、塀をよじ登って取りに行くのが面白かった事と、確か放送部があって、昼休みに校内放送で



当時の部長島居先生にインタビューした時のこと位で、おとなしいチビだったと思います。

今は同期会の世話人のようなもので、同期の人達が時々集まって旧交を温め語れる場を提供できれば嬉しいと思います、同期会に携わっています。

同期会便り

中等部卒業五十周年

記念クラス会

八期 梅原 健三

中等部卒業五十周年記念クラス会（しのぶ会）を二〇〇七年四月一日（土）に青学会館で開催しました。

昭和三十三年（一九五七年）に中等部を卒業し、数年前に還暦を通過、今年六十六歳を迎えます。

昨年行なわれたクラス会の中で、どなたかが「来年は中等部卒業五十周年」なので「記念のクラス会」を盛大に行なおうという提案が出て今回の催しになりました。

「しのぶ会」という会名は、二、三学年時の担任（音楽担当）だった伊藤信夫先生の名前から付けられた経緯があります。クラス四十七名（男二十名、女二十七名）のうち物故者三名を除き、今回の出席者は二十五名。クラスの半数以上が出席し、二次会を含め約五時間、全員が残っていました。

伊藤先生が天国に召されて早や十年が過ぎました。しかし、三年B組のしのぶ会は、伊藤先生の思い出と共にこれからも続いていく事と思います。今回出席できなかったクラスメート達も、次回には顔を見せてほしいと願いつつお開きになりました。



緑窓会新役員

会長 崎田 克巳（十四期）

副会長 伊藤 正道（十五期）

松元 茂（十六期）

西本由里子（十八期）

会 計 鳥居 照子（八期）

河合 陽子（十五期）

監 事 田坂 興亜（六期）

今村 和久（十期）

運営委員 岩永 晴美（六期）

広 報 門田美智子（八期）

名 簿 倉持 皓子（七期）

中野 凱美（十期）

松田 百代（十四期）

富士野ゆかり（二十二期）

パソコン 梅原 保（十三期）

須藤 勉（二十五期）

代議員（二〇〇九年六月迄）

飯村 肇（三期）

三上信二郎（五期）

堅村美恵子（五期）

岩永 晴美（六期）

倉持 皓子（七期）

門田美智子（八期）

鳥居 照子（八期）

今村 和久（十期）

中野 凱美（十期）

松田 百代（十四期）

伊藤 正道（十五期）

松元 茂（十六期）

真藤 純一（十七期）

西本由里子（十八期）

杵家 弘和（二十一期）

富士野ゆかり（二十二期）

鈴木 淳雄（二十八期）

常任委員（二〇〇九年六月迄）

飯村 肇（三期）

今村 和久（十期）

校友会副会長

崎田 克巳（十四期）

会長職の任務を終えて

今村 和久

三期六年の会則による最長の任期を終えさせて戴きました。その間の会の運営を担って戴いた方々、各期の幹事の方々、そしてすべての緑窓会の会員、中等部の教職員の方々の御協力を頂戴しましたことに對し、紙面にて恐縮ですが、ここに感謝の気持ちをお伝えし、心より御礼を申し上げます。

一九五〇年よりの伝統を誇る緑窓会を、その理念と共に今後とも支援させて戴きます。毎年の祝祭等を通して皆様方とまたお会いしましょう。

中等部便り

★二〇〇八年度人事

部長 山本 与志春
 教頭 千輝 克忠
 宗教主任 西田 恵一郎
 教務委員長 浦田 浩
 指導委員長 小田 文信
 教研委員長 橋本 和美
 三年学年主任 疋田 好子
 二年学年主任 山本 節子
 一年学年主任 真藤 純一
 事務長 渡邊 哲

★退任

足立 茂久 先生(体育)
 十二年六ヶ月間、体育科専任として奉職されましたが、健康上の理由により、二〇〇七年十一月より宗教センターで活躍されています。

木村 恵理 さん(事務)

十八年六ヶ月間、事務職員として会計係・教務係を担当されましたが、十月から本部財務部大
 学経理グループへ配置転換、課長として活躍されています。

井村 歌恵子 先生(音楽)

二十四年間、音楽科非常勤講師として器楽を中心に担当されました。

沈 雅亭 先生(韓国語)

五年間非常勤講師として韓国語を担当。梨花女子大学付属中学校との交流にも尽力してくださいました。

★就任

西口 安紀 先生(国語)
 一年間、国語科非常勤講師として二年生の国語を担当されました。

鈴木 知明 先生(理科)

二〇〇七年四月から理科の非常勤講師。今年四月から専任教員に就任されました。

竹内 隆太郎 先生(体育)

二〇〇七年四月から体育科非常勤講師。今年四月から専任教員。竹内先生は初等部から青山学院で学ばれ中等部三十九期生です。

★各種行事

※一年 オリエンテーション
 四月十四日～十六日 天城山荘

※二年 裏磐梯キャンプ
 五月二十七日～三十日 休暇村松原荘

※三年 沖縄旅行
 五月二十七日～三十日 沖縄本島

※オーストラリア・ホームステイ
 希望者二十余名

八月十五日～二十八日 ブリスベン
 郊外

※秋季運動会
 十月十一日 中等部グランド

※中等部祭
 十一月八日～九日 中等部内

※クリスマス礼拝
 十二月十八日 青学講堂

※第六十二回卒業式
 三月十七日 青学講堂

※韓国梨花女子大学付属中学校訪問
 三月二十六日～三十日(予定)

ソウル(大韓民国)

2007 (平成19) 年度収支計算書

自 2007(平成19年) 4月1日
 至 2008(平成20年) 3月31日

青山学院中等部緑窓会

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
会報制作費	696,990	2007年度入会金	804,000
会報送費	1,247,267	維持会費	1,074,000
会費	552,362		
事務用品費	67,259	諸収入	3,000
会議費	111,147	預金利息	12,892
交通費	192,460	前受会費	4,000
水道光熱費	12,000	チャントミット献金	30,077
通信費	122,025		
貸借付料	136,080		
寄附金	250,000		
人慶費	100,000		
雑費	0		
	58,790		
本年度支出合計	3,546,380	本年度収入合計	1,927,969
当年度収支差額	-1,618,411	前年度繰越収支差額	10,916,077
次年度繰越収支差額	9,297,666		

緑窓会会計報告

会長 今村 和久
 副会長 崎田 克己
 副会長 西本 由里子

副会長 伊藤 正道
 会計 鳥居 照子
 会計 河合 陽子

監事 飯村 肇
 監事 田坂 興亜